

2015 年度 入学 試験 問題

国 語

(試験時間 14:50~15:50 60分)

1. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
2. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
3. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
4. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
5. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

一 次の文章は一九九四年（平成六年）に発表されたものである。これを読んで、後の問に答えなさい。（50点）

理由はともあれ、都市は衰亡することに極度に不安であり、しかもユートピアは描くにも描けないことをシヨハンの事情のなかで知悉（あきらか）しているときに、衰亡を回避しようとしてイベントが構想されるのである。イベントは永続的ではなく、根も葉もないでつちあげである場合を含めても、都市の活動を表象する記号的行為であることは認めておかねばならない。イベントとは、カーニヴァルが通用しないまでに構造が変質した都市が、衰亡を防ぐ仕掛けなのである。都市は、経済的活動の充足を期待するために、みせかけにしろなんらかの生命を賦活するイベントの発生を利用しないかぎり、次第に老朽化していくことを知っているのである。

そのために建築物を有名建築家に建て替えさせたり、スポーツ施設をつくって群衆を発生させたり、ショッピング・センターを建設して沸き返るような消費現象をつくることに熱中する。それは多少ともコウジョウ性（2）をもった企画である。ときにはこうした都市の改造のために、もっとも一過性のイベントが利用されることがある。たとえばずっと昔のことになるが、東京オリンピックは、東京を改造するためにフルに活用されたイベントであった。イベントは人びとのあいだにひとつの活気ある接触を生む「文化」的な場をつくる口実である。

イベントはあくまで文化的でなければならぬのである。かりに特産品を売り出すにしても、物に文化的な意味をあたえないでは経済効果も獲得できない。この曖昧な文化という概念をはっきりさせないまま、都市行政では文化という言葉だけが動いている。ドイツの歴史社会学者ノルベルト・エリアスが文化を二つに分けて定義するのは、ケイチヨウ（3）に値する意見である。ひとつは美的ないしは知的な作品が社会に登場する仕方である。もうひとつは普通の生活のことである。しかし、芸術家ないしは思想家というものは、決して社会全体に影響をもち関与するものではないし、大衆はこうした知的生産物に直に接触するのではなく、何重かのメディアを通して経験するにすぎない。キョクケン（4）すると、現代の芸術や思想は決して大衆に関係のない、だがいつの日か、もうひとつの文化に浸透している可能性がありうる高度の認識と想像力に属するものである。

しかしもうひとつの文化としてのごく普通の生活実践は、都市を構成している中心的な活動のひとつであり、社会をある方向に向けて統合していくほどの感情の力をもつし、それはある時代の世界像にも深くかかわっている。このような意味での文化は、やがて制度を形成していく萌芽でもあれば、人間相互を関係づけている構成力でもある。いうまでもなくそれは意味の世界を構成している。現在のイベントがしきりに「文化」を強調するとき、こうした文化の二つの意味が曖昧にされている。イベントで使いうる「文化」という言葉は決して芸術や思想をさす言葉ではない。イベントは、この普通の生活文化を領域とするものでありながら、それを非日常化してみせる表象行為である。この文化における非日常性は、気晴らしやエンターテイメントというかたちをとるのが普通である。都市の行政者たちは、このようなアミューズメントが、都市全体にかかわる「文化」の一面であるということをししばしば忘れていたが、そのことが根本的間違いを引き起こすのである。

現代の都市では、実質的な機能を充足した上で、その上に生じる⁽⁵⁾ジョウウヨを文化というのではない。現代都市は、さまざまな欲望のゲーム的活動が文化という場を作っていて、そのなかに実質的な機能活動も包み込んでいるのである。古い言葉になるが、かつては下部構造の上に上部構造としての文化が発生したと考えられてきた。今ではそうではない。文化としての普通の生活があつて、そのなかに労働も生産も含まれてくるのである。ニュータウンに異質な文化を移植したり、きめ細かにみせかけた集合住宅をつくるのも、買物のパターンが大きく変化したのも、こうした都市という多様なゲーム的活動のなかにある文化の形式ではないか。

文化的なイベントとは、普通の人間の集合的な活動をなんらかの希望にみちたエンターテイメントとしてとりだし、それを都市のなかで可視的な出来事にするゲームであり、それゆえに本質的に政治的なものである。イベントの政治性については、オリソニックを誘致する騒ぎをみるといい。ほとんど無意識的にナシヨナリズムが強制されているのである。これは現代の逆説である。ネーション・ステートを脱したように国際化と呼ばれているイベントの多くは、ナシヨナリズムと対になっていることが多いのである。

イベントは一時的であり、都市を構成する活動を浮上させては消滅する。しかし、もうひとつ似たような、しかし多少とも永

統的な、そしてより物語的な施設がある。それを今ではテーマ・パークと呼ぶことが多い。

このテーマ・パークをだれも夢のあるユートピアと思つて建てたのではない。完全なゲーム。結果の最初から分かつたゲーム。それがテーマ・パークなのである。こうした現象は、日本の観光事業のひとつのあらわれにはちがいないが、それだけではない。⁽⁶⁾都市を動かす奇妙なゲームの力がモデル化されているのである。テーマ・パーク的なゲーム性はすでに都市に浸透している。

テーマ・パークは、経験のアミューズメント化から生まれてきた。かつてイベントは作り物であり、その他に実人生があると
いう考えが支配的であり、イベントを「疑似イベント」と批判的に呼んだ時代があつたことは事実である。こうした疑似的なイベントのはじまりはあたらしいことではなく、十九世紀のアメリカのさまざまな遊園地で発生していた。本物の馬に乗る代わりに、本馬に乗って競争するというたわいもないものであつたりしたが、そうした遊戯的経験を受け入れはじめたことは、あたらしい人間の感受性の現実であつた。

しかし人間はどんな時代でも、みずからがつくりあげた (7) のなかに生きてきたのである。それでいてわれわれがなんらかの経験を「真実」とか「本物」とかいう根拠は、その物語が歴史と伝統をもつときであつた。それはすでになんらかのコードによる修辭的イメージであつたのだが、現に流れた時間がその事実性を保証しているように思われてきたのである。われわれの現実の都市は、今や、こうした歴史による根拠づけから完全に遊離したゲームであることを、テーマ・パークは示している。現在を動かしている方が修辭学という装置を通過しつつ生み出すモデルで、都市をゲームとして描いて見せる政治的試みなのである。

シミュラクル（模倣物）からなるテーマ・パークの種類はいくらでも増えつつある。それらのなかでもっとも古くからあり、かつ規模壮大にして成功を収めた記念碑的テーマ・パークがディズニールランドである。この奇怪なまでに壮大な人工楽園的遊園地、ディズニールランドについては、さまざまな社会学者が研究してきた。アメリカにはじまり、世界をアメリカ化してきた修辭学（文化の政治学）を理解する上で、ディズニールランドは興味深い対象であるからだろう。

ディズニールランドはディズニール映画を空間化し、観客をそのスペクタクルの演者にしてそのなかに入らせる、一種の仮想現実

まで進んだ。東京デイズニーランドの場合、全体は五つのテーマをもつ独立した領域からなる。テーマを分析的に図式化すると、過去から未来にいたる軸と、幻想から現実⁽⁸⁾にいたる軸を交差させている。要するに人間の生の全体を覆っているのである。

しかしこれらのスペクタクルは修辭学的に変形されているのである。つまり建築の寸法から遠近法にいたるまでが、あきらかに少しゆがんでいるし、物語の場合でも、デイズニーの意図によって原物語は変形されている。白雪姫のオリジナルは変質させられてデイズニー的白雪姫になる。しかしこの修辭学こそ、この世界の論理である。しかもそれは歴史認識、想像力、感情の範圍に及んでいるから、いわば日常的に経験している世界とは異質な世界、もうひとつの世界が誕生していることになる。このようにな世界をアミューズメントとして受けとらせることこそ、政治と想像力を給ませる修辭学にはかならない。

近代とはなんであつたかとはともかく、それはとりあえず二つの方向で現実を超越するモデル化の傾向をもつていたことはたしかである。ひとつは、ル・コルビュジェのように現実から出発して (9) 主義的な目的をもつたモデルをつくることであり、それはユートピア的計画に達する。それは (10) 主義的であり、かつそこには充分、太陽とか緑とか、普遍的な神話が宿りうる。もうひとつが現実から意味を生成するのではなく、あらかじめ設定された虚構の物語を消費するモデルである。これは生産ならぬ消費と誘惑のゲームにほかならない。それがテーマ・パークに到達する道であつた。

こうしたデイズニーの世界は人間の住む都市ではない。しかし人間の生活のなかでのある種の私的な感じ方、ある種の私的な興味、ある種の私的な願望などを、そのまま物語として実体化した都市のモデルである。たしかにそこに行くことは、こうしたモデルのなかに入り込むことである。デイズニーランドは、人びとが (9) を求めることをやめ、ゲームにのめり込むようになった資本主義的世界のある段階の典型的な現象である。決して突然の現象ではなく、シミュラクル化した現実のなかに人を住まわせるようになった都市に起源をもっている。 (11) デイズニーランドのような究極のシミュラクルは、そのまま普通の生活者の都市に実現されることはないが、感受性に強力な影響をあたえる都市のモデルになりはじめるのである。異様に政治的な力さえもつモデルになつたのである。

注 カトニワアル……祝祭。

ネーション・ステート……国民国家。

ル・コルビュシエ……スイス生まれの建築家（一

八八七―一九六五）。

〔問一〕

傍線(1)(2)(3)(4)(5)のカタカナを漢字に改めなさい。（楷書で正確に書くこと）

〔問二〕

傍線(6)「都市を動かす奇妙なゲームの方」のあらわれの具体例として、あてはまらないものを左の中から一つ選び、符号で答えなさい。

- A 起源をアメリカにもちながら日本流に営業形態を改め、どの店舗も画一的なサービスを提供するコンビニチェーン
- B 鎖国期にも交流の歴史があったオランダの都市建築をモデルに、コロニアル風の建築物で構成されたテーマ・パーク
- C ビバリーヒルズの高級住宅地を模して広い庭をもった、日本のステータスシンボルの典拠である郊外のニュータウン
- D 駅前の丘にギリシャのパルテノン神殿に似せた建築物をもち、核家族の日本の生活形態に適応した郊外のニュータウン
- E アメリカのハンバーガーを模倣奪胎し、日本の伝統的食習慣に合わせた商品を開発提供するファーストフードチェーン

〔問三〕

空欄(7)に入れるのもっとも適当な五字の語句を、本文中から探し出して答えなさい。（句読点、かっこも一字に数える）

〔問四〕 傍線(8)「政治と想像力を絡ませる修辭学」とはどういうことか。その説明としてもっとも適當なものを左の中から選び、

符号で答えなさい。

- A オリジナルの物語よりも更に入びとを楽しませるほど精緻な、ディズニーによる物語技法
- B もうひとつの世界にリアリティーを感じさせるほど高度な、アメリカによる文化的戦略
- C 世界の文化をいつのまにかアメリカ化するほどに強力で、なおかつ不可視な政治的戦術
- D 歴史認識さえ更新させ仮想現実を現実と思わせるほど圧倒的な、行政者による政治的操作
- E 虚構の空間を形成し、人びとの感じ方にさえ影響をあたえるほど巨大な力がはたらくメカニズム

〔問五〕 空欄(9)(10)に入る語句の組み合わせとしてもっとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- | | | |
|---|--------|---------|
| A | (9) 機能 | (10) 理念 |
| B | (9) 象徴 | (10) 享樂 |
| C | (9) 理想 | (10) 機能 |
| D | (9) 機能 | (10) 消費 |
| E | (9) 現実 | (10) 機能 |

〔問六〕 空欄①に入れるのにもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A しかも起源とモデルは逆転した
- B だが起源はモデルを變形させた
- C しかし起源とモデルは変質した
- D やがて起源もモデルも變化した
- E そして起源はモデルを根拠づけた

〔問七〕 次の文ア～カのうち、筆者の考えと合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

- ア ゲーム的に世界中を環流する資本の巨大な力により、都市は衰亡の危機に晒さらされている。
- イ ハイカルチャーではなく日常のなかにこそ、次の時代を形作っていく諸力が潜在している。
- ウ 都市改造やニュータウン開発を行う行政の力により、都市は活性化され、衰亡に抗たがっている。
- エ 都市はイベントや合理的な都市計画を生み、そうした知的生産物を通じて文化は生みだされる。
- オ 文化はもはや、生産や労働といった自己を規定するよりどこをもちたない点でもゲーム的である。
- カ サッカーのワールドカップのように国際的イベントでは、メディアによってナショナリズムが強要される。

二 次の文章は一九六五年（昭和四〇年）に発表されたものである。これを読んで、後の問に答えなさい。（20点）

私にとって歴史は、なによりもまず画廊のようなものである。そこには、さまざまな場所とさまざまな時代に、人間が展開したドラマの絵が残されている。そして、それはときどき、現在に生きるわれわれに思いがけないヒントを与えてくれる。そこには、ギリシア時代の歴史もあれば、日本の戦国時代の歴史もあって、そのどちらを興味するかはわれわれの選択に委^{まか}せられているのである。「明治」という時代の歴史についても、それは私にとって、やはり基本的には歴史という画廊にかけられた絵画なのである。

もちろん、人によっては歴史はわれわれがその上に立脚すべき遺産であったり、あるいは克服すべきかせであるかも知れない。とくに、明治というわれわれの国の「さして遠くない時代の歴史については、そういう気持ちをいなく人がいたとしても大して不思議ではない。それどころか、私のような見方をとる人はむしろ例外であるだろう。

しかし私は、やはり「明治」を画廊の一つの絵画として見る。そして、その方が歴史はわれわれにより多くを教えてくれると考えている。何故なら、明治は現在の日本に連続しているよりは、むしろ、すでに完結したドラマを表わしているからである。そして、明治の人々が直面していた問題は、今日われわれが直面しているそれとは、似ていると言うよりは異つてい^いると言つた方がよい。

とくに私は、それを明治初期に生れた老人たちに出会うときに強く感ずる。彼らは頑固である。ところが、われわれは頑固さにあこがれはするけれども、決して頑固にはなれないのだ。他のいくつかの点においては、明治生れの人々の方が、その後の世代の人々よりも、われわれに近いと思われるところもあるのだが、その信念の明確さと強さにおいて、彼らはわれわれと明らかに異つているのである。

明治はなすべきことがはっきりしていた時代であった。強大な西洋文明の東漸を前にして日本という東洋の小国の独立を守ること、それは余りにも大きな至上命令であったし、この点についてはなんの迷いもありえようがなかった。逆に、彼らは出発点

をも共有していた。彼らは西歐の衝撃を受ける以前の日本に育ち、その教育を受けた人々であった。和漢の学問は、夏目漱石のような英文学者や福沢諭吉のような欧化主義者によっても、共有されていたのである。古い日本の生き方を体现するものとしての士道は、彼らのなかに実在として生きていた。

だから問題は、西歐の衝撃に対応するという至上命令と、(2)との間の矛盾であり、それをどうつなぐかということであった。何故なら、この場合問題は日本が西洋の文物をとり入れて近代国家を作り上げれば、それで済むようなものではなかった。歴史家トインビーが述べたように、すぐれた外国文明の衝撃を受けた文明においては、つねにその対処の方法として二つのものが生れた。一つは(2)にしがみつく「狂信派」であり、他はすぐれた文明を全面的に取り入れようとする「ヘロデ主義者」である。ロシアにおいては、それは「スラブ派」と「西歐派」の対立として現われた。

ところが、「狂信派」は一見そう見えるほど馬鹿げてはいないのである。「ヘロデ主義者」のようにすぐれた外国文明を模倣することは、そのすぐれた技術を模倣することであるが、しかし、いかにすぐれた技術を導入しても、それを使う人間が魂のない、活気に乏しい人間であるならば、すぐれた外国文明の圧力に抵抗しえない。人間がそうであるように、社会や国家も才能だけでなく、強い意思の力を持ってはならないのである。ところが、外国文明の摂取につとめる人たちは、ややもすると生きた方のシンとなるべきものを失い勝ちになる傾向がある。

だから、明治の人々がこの矛盾に悩んだのは当然のことであった。たしかに、日本は世界の歴史で珍らしいほど、「好新家」の方が優越した国であった。ロシアでは、「西歐派」に対する「スラブ派」の反撥はんぱつがやがてはロシア革命につながった。同様に、中国においても、毛沢東の中国共産党は、一九一〇年代と二〇年代の西歐派の失敗を受けて現われた中国派であったと言えるだろう。同じことは、今日の世界においても牽るところで見られる。インドネシアのスカルノは、間違いないに西歐派ではないし、彼が立っている伝統はインドネシアがオランダによって植民地にされる前のものなのである。この場合、古いが故に劣っているという考えはきっぱりと捨て去らなくてはならない。進歩的、反動的という基準でものごとを判断する人々は、ソ連革命や中国革命やインドネシアが基本的には「恋旧家」の伝統に立っているという私の考えに対して強い反撥を感じるかも知れない。

しかし、人間というものにとって才能と生き方が共に重要である以上、そのいずれを強調するかについて甲乙をつけることはできないのである。私の歴史の画廊には、進歩的とか反動的とかいう言葉はない。

それはともかく、日本ほど「好新家」が成功した国はなかった。そして、日本における「恋旧家」がなくなりあるいは一人の人間の心の「恋旧要素」がなくなつて「好新要素」だけになったとき、近代日本は下り坂に入ったのであった。それは日本の軍隊の歴史に代表されている。日清戦争と日露戦争を戦つた日本の軍隊には、古い生き方が実在として残っていた。それ故に、諸外国を驚かした軍紀が生れたのである。しかし、それ以後日本の軍隊の技術的レベルはたかまつたけれども、それを支える軍人の生き方は実質を欠くものとなり、形だけのものになつて行つたのである。私は昭和維新と呼ばれるものは、きわめて日本的な形における「恋旧家」の反逆であつたと思つてゐる。ただ悲劇的であつたのは、彼らが真に「恋旧家」ではなかつたこと、それ故、古い生き方を真実に体現してはいなかつたことである。だから、それは失敗し、明治に始まつたドラマは終つたのである。

それに対して、われわれの時代はなすべきことがあまい点において、何よりの特徴を持つてゐる。そして、われわれを引張るだけ十分に強い古い生き方もそこにはない。私には、過去の束縛を断つことにすべてを賭けてゐるような人のことがよく判らない。幸か不幸か、過去はわれわれに對して、それほど明確な言葉で語りかけてはいないし、それほど強い力を持つてはいないのである。われわれの問題は逆に、われわれを制約すべきものがないことから生じてゐる。われわれは一つの目的を信じ、そのために努力を集中するという生き方はできない。そして私は、そうしようとも思わない。しかし、それが可能であると同時に、つらい必然でもあつた明治は、歴史の画廊の中で私の好きな絵の一つなのである。

（高坂正堯「明治と私」〔筑摩書房編集部編「明治への視点」〕による）

注 昭和維新……昭和初期、保守勢力が天皇中心の政治体制樹立を目指して掲げた標語。

〔問一〕 傍線(1)「明治」という時代の歴史についても、それは私にとって、やはり基本的には歴史という画廊にかけられた絵

画なのである」とあるが、その説明としてもつとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 絵画にはそのどれにも深いドラマが描かれているように、明治に生きた人間群像にも、現代人とは似て非なる一人一人のドラマがあるということ。

B 絵画が一つの作品として完結しているように、明治の人々が直面した難問はすでに解決済みであり、現代に生きる人々にはヒントを与えてくれないということ。

C 絵画がその一つ一つに個々の特性を内包しているように、明治という時代は他のどの時代とも異なる、現代人が学ぶべき個性を有しているということ。

D 絵画が一枚一枚自律した対象であるように、明治に生きた人間の信念や、彼らの直面した問題は現在には流れ込んでおらず、対象化が可能であるということ。

E 絵画がそれぞれ鑑賞者にある寓意をもつて語りかけてくるように、明治期の問題群は現代人とは無関係に見えながら、実は多くを教えてくれるということ。

〔問二〕 空欄(2)に入れるのにもつとも適当な五字の語句を、本文中から探し出して答えなさい。(句読点、かつこも一字に数える)

〔問三〕

外国文明への対処に関して、本文の内容に合致するものはどれか。もつとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 明治期の「好新家」の中には「恋旧家」の精神が宿り、和漢の教養に支えられた強い意思の力により西洋文明を受容していったが、そこから「恋旧家」の精神が失われたため、近代日本は袋小路（ふくろこうじ）に陥った。
- B 「ヘロテ主義者」が先進文明を取り入れようとする場合には、単にその技術のみを取り入れることに目がいきがちであるが、「狂信派」にならない、その精神も共に受容していく姿勢を持つべきである。
- C 近代日本と違って、ソ連や中国、インドネシアにおいては、「恋旧家」の中に伝統を墨守する「好新家」の魂が宿り、改革を推進していった点からすれば、進歩的、反動的という二元的区別はみられない。
- D 近代日本の改革は、「好新家」が優越したように見えるが、強固な伝統的意志や、活気に満ちた躍動する魂を根底としており、「恋旧家」こそが真の先導者であった点は他国の場合と同様である。
- E 「狂信派」が主導したはずの昭和維新が失敗したのは、明治期に存在していた伝統的な土道を置き忘れてしまったためであり、その限りにおいてそれは「ヘロテ主義者」による革命であったといえる。

〔問四〕 次の文ア、エのうち、本文の趣旨と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

ア 明治に生きた人々の信念が明確で強い要因の一つは、明治が大きな一つの目的に向かって邁進すればよかつた迷いのない時代だったからである。

イ 歴史を、立脚すべき遺産、克服すべきかせとする視点に立つても、伝統を生かしつつ新しいものを取り入れた明治人の生き方から、現代人が学ぶべきものはない。

ウ 日清・日露戦争時の日本の軍隊は、西洋の技術を取り入れていたが、伝統と近代の軌轍あつれきに悩んだ明治人が兵隊として闘ったため、たぐいまれな軍紀が保たれていた。

エ 現代において、我々を制約するものが存在せず、なすべきことがあいまいであるという問題が生じるのは、強固な信念を抱かざるを得なかつた明治の影響力が及ばないためである。

三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(30点)

今は昔、あてなる男の、いみじう好きずきしかりけるが、よろづの所の、心細げにあはれなるを、⁽¹⁾見歩きけるなかに、小さき家のあやしげなるが、⁽³⁾さすがに内などしたたかに造りてゐたる人ありけり。煙も立たず、⁽⁵⁾さびしげなること限りなし。「いかなる人ぞ」と、あたりの人に問ひければ、「さる尼の候ふが、⁽⁶⁾物食ふ事も知らず、心細げにてこのとしころ候ふなり」といふを聞きて、

朝夕に煙も立たぬ壺屋⁽⁹⁾には露の命もなにかくらくらんといふを聞きて、この尼、

玉光るむすめ籠めたる壺屋には露の命も消えぬなりけり⁽¹⁰⁾といふ。あやしくて、よく問ひ聞きければ、めでたく、光りかがやくむすめを隠し据ゑたるなりけり。

〔古本説話集〕による

注 壺屋……物置や納戸風の部屋。

〔問一〕 傍線(1)「好きずきしかりける」、(5)「さびしげなる」、(7)「候ふ」、(8)「としごろ」の口語訳として、もっとも適當なるものを左の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。

(1) 好きずきしかりける

- | | |
|---|---------|
| A | 好ましそうな男 |
| B | 好色そうな男 |
| C | はで好みの男 |
| D | 好みのちがう男 |

(5) さびしげなる

- | | |
|---|------------|
| A | 暮らしに不満そうな |
| B | 暮らしが貧しそうな |
| C | 性格が穏やかそうな |
| D | 性格がひとりよがりな |

(7) 候ふ

- | | |
|---|----------|
| A | おります |
| B | お仕えています |
| C | 参上しています |
| D | いらつしやいます |

(8) としごろ

- | | |
|---|------|
| A | 年の内に |
| B | 年老いて |
| C | 適齡期の |
| D | 数年の間 |

〔問二〕 傍線(2)「見歩きける」、(4)「ありけり」、(6)「問ひければ」、(9)「浦えぬなりけり」、(10)「問ひ聞きければ」の助動詞「けり」の中で、他と意味の異なるものをつ選び、符号で答えなさい。

- A (2) B (4) C (6) D (9) E (10)

〔問三〕

傍線(9)「さすがに内などしたたかに造りて」の解釈として、もっとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 外見は貧相でも、家庭の内部の事情はどうか取りつくろつて
- B 外見はみすぼらしいが、しかし家庭の内部は強い絆で固めて
- C 外見は貧弱そうでも、家庭の中心となる夫は大切にして
- D 外見は貧相でも、中の設備や裝飾はどうか体裁を整えて
- E 外見はみすぼらしいが、中の設備や裝飾はきちんと仕上げ

〔問四〕

傍線(9)の「露の命もなにかくらん」の解釈として、もっとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 露のような涙にぬれたこの身を、なにに干して乾かしたらよいのだろうか。
- B 露のようにぬれた命の糧を、どうやって乾かして命を長らえたらよいのだろうか。
- C 露のようにはかなく消えた命を、なにによって尋ね求めたらよいのだろうか。
- D 露のようにはかない命を、なにをよりどころにいつなぎとめているのだろうか。
- E 露のようにこの身をぬらす涙を、どうしたら流さずにいられるのだろうか。

〔問五〕 この話の興趣はどのような点にあるのか。その説明として正しいものに対してはA、そうでないものに対してはBの符

号で答えなさい。

A 身分の高貴な男が、好色そうだと誤解されたために、貧しい美女に失恋するという滑稽さ。

I みすぼらしい外見に似合わず、家の内부는大勢の家族がにぎやかに華やいでいる様子の不審さ。

ウ 朝夕の炊事も満足にできない貧しい厄が、何年も生きながらえていることの不思議さ。

E 小さなみすぼらしい家に、食事にも事欠く貧しい厄が美女を働か^{かま}していることの意外さ。

オ 狭い納戸のような所に、光り輝くような美女が長い間閉じ込められているという不気味さ。